

多摩ゐのはな会

鈴木 光

多摩地区における同窓生の活躍

多摩地区は東京都の西部に位置し、膨大な人口をかかえている。したがってここに住まわれている同窓生の数は多い。それは平成21年に発行された千葉大学ゐのはな同窓会名簿を見れば明らかで、数多くの先輩、後輩が近くにいて驚く。

しかしこの地区でのゐのはな同窓会としての組織立った活動は活発ではなかった。都内には東京ゐのはな会があり、会報も発行して立派に活動されている。本来はその支部として活動すべきであろうがそれもなかった。今回多摩地区についての記載を求められ、それ程の活動内容もないのにと躊躇したが、パスするのもはばかられた。そこで同窓の方々の応援を頼み、活躍の状況を記したい。敬称略。

私が知る一番の先輩は正宗幹夫（昭14）で、耳鼻科を開業され、府中市医師会でも役員を長く務めた。つい最近まで多摩ゐのはな会に出席されている。昭和30年ころ、現在の都立府中病院（2010年3月より都立多摩総合医療センター）の前身である都立府中療養所に、当時肺結核の外科治療では国内で指導的な地位にあった千葉大学第一外科から清水衛（昭19）、吉田作、大野信二（昭23）、鬼頭康之（専昭25）、高野興三（内科、昭24）らが着任し、千葉大学の一つの拠点となった。彼等の多くは昭和50年代までそこに勤務し、彼等が中心となって多摩ゐのはな会が毎年開催されていた。都立府中療養所は武蔵野の雰囲気を残した広大な敷地に建てられていた。昭和45年総合病院化されて都立府中病院となり、名実ともに多摩地区の基幹病院となり、療養所部門は呼吸器科となった。その呼吸器科には昭和49年、井村价雄（呼吸器外科、後に副院長、昭37）、昭和52年、鈴木光（呼吸器内科、昭36）、山本弘（呼吸器外科、昭39）らが着任して彼らの後を引き継いだ。呼吸器内科には昭和55年から千葉大学呼吸器内科から研修医が派遣されるようになり、現在までに数多くの医師が研修されている。巽浩一郎、亀井克彦両教授もその一人であり、現在は藤田明（昭56）が部長を務めている。また一般外科には中川康次（昭36）を初めとして、山野元（昭31）、南智仁

（昭49、現都立広尾病院長）、菊池友允（昭47、現多摩北部医療センター院長）、松本潤（昭57、現外科部長）らが勤務し、呼吸器科同様千葉大学から若い医師が研修に来ている。また昭和59年、矢沢知海（外科、昭26）が院長で赴任され6年間務めた。

三鷹市に昭和45年に創立された杏林大学には、千葉大学薬理学の小林龍男教授が基礎部門の充実のため数年間教授を務められ、関隆（昭24）が後を継いだ。生理学には渡部士郎（昭26）が教授として着任、定年まで活躍した。臨床では外科に鍋谷欣市（昭27）が着任、花岡建夫（昭33、後に教授）、小野澤君夫（昭36、後に助教授）、滝川浩志（昭43、後に講師）、李思元（昭43、後に講師）、新井裕二（昭45、後に講師）、本島悌司（昭45、後に講師）、入村哲也（昭48、後に講師）らが外科の発展に参画した。麻酔科には神山守人（昭32）が外科と同時期に教授として着任、良い協力関係にあった。近年に至り杏林大学がんセンターの開設にあたり古瀬純司（内科、昭59）がセンター長として着任し今後の活躍が期待されている。

昭和58年八王子市に元千葉大学教授中山恒明先生を理事長に中山記念胃腸科病院（現八王子消化器病院）が開設され、女子医大消化器センターの脈が診療にあたっている。本学出身者では林恒男（外科、昭44）がおり、平成8年から21年まで羽生富士夫（外科、昭29）が理事長を務め、消化器病に特化した病院として隆盛している。

清瀬市の結核予防会複十字病院外科には小山明（昭35、後に副院長）、府中市にある西東京警察病院循環器科には桑木綱一（昭41、後に院長）が勤務し、現在では多摩南部地域病院循環器科に、高田博之（昭56）がいる。

保健所長では、大野信二（昭33）、唐木一守（専昭24）らが勤務し、現在上木隆人（昭46）が多摩立川保健所長を務めている。

八王子の多摩相互病院には田口正義（内科、昭26）が昭和30年代から長く務め（後に院長）、現在も地区の病院で診療にあたっている。武蔵野市では佐野迪雄（昭29）が昭和35年から平成18年まで武蔵境病院の院長を務めていた。平成15年からは青梅市にある介護療養施設今井病院に、元国立千葉病院長

の武者廣隆（内科，昭40）がいる。

その他開業された方々は多いはずで，地区医師会の幹部として活躍されている先生方も数多い。わかった範囲で列举する。

幸島 秀夫（昭17）保谷市医師会長
 織本 正慶（昭22）清瀬市医師会長
 指田 和明（昭30）武蔵村山市医師会長
 宮川 栄次（昭31）西多摩医師会長
 浅見 敦（昭30）三鷹市医師会長
 桧垣 有徳（昭33）田無市（現西東京市）
 医師会長
 加藤 直幸（昭33）小金井市医師会長
 関根 博（昭26）北多摩医師会
 野本 正嗣（昭54）青梅市

三鷹市の永井友二郎（昭16）は実地医家の会で活躍され，本も出版されている。

小金井市の桜町病院には山崎章郎（昭50）がホスピス活動で全国にその名をしられている（後に独立）。

既述の多摩みのはな会は，年に一度秋に開催され

ている。正宗幹夫，清水衛らが長らく会長を務め中心となって運営されてきた。恒例として最初に主として会員からその専門分野の話題を提供して頂きその後懇親会にはいるというスタイルで行っている。近年は上田源次郎（昭53，内科，国分寺市），石川てる代（昭53，婦，国分寺市），松原公護（昭54，精神，国分寺市）らが積極的に手助けしてくれ，例年二十名前後の参加者で，正宗，清水，田口正義，佐野迪雄（元会長），浅見敦らがほぼ毎年出席されている。千葉大学の出身者は，おっとりとしているのか，実力があるから必要性を感じないのか，他大学出身者のように助け合っていこうとする気持ちが少ないように見える。開業したり定年になったりすると仲間と話す機会が減る。同窓の方々の元気な姿を見，昔のこと等をまじえて話をするのも懐かしく楽しいもの。これを機会に今後同窓の方々の参加が増えることを願っている。

追記：2010年に羽生富士夫（昭29），正宗幹夫（昭14）両先生がご逝去されました。

（すずき あきら）